

令和7年度 学校法人北見大谷学園 認定こども園北見大谷幼稚園ほいくの森 『学校評価報告書』

項目	重点目標（保育活動等）	達成状況・成果・課題	評価	改善・方策	学校関係者評価（意見・要望）
1 認定こども園の運営・組織	①教育（保育）理念・目標・重点目標・指導計画等に基づき、日常の保育を推進する。	〔〇〕重点目標や指導要領を踏まえた保育を遂行できたが、反省を次の保育計画に活かす意識を高めたい。	B	園独自の指導計画を評価し時代に応じた保育を展開すべく、見直しの視点を大切にする。	理念や目標に立ち返り続けるために、B評価であることをむしろ有意義に捉えたい。大切な項目なので、引き続き園内で確かめ合いながら保育を進めて欲しい。
	②教職員が教育（保育）理念等の目標達成に向け、使命感と責任感を持って協働体制をつくり園の運営に参画する。	〔◎〕子どもの状況や保育内容に関するコミュニケーションが図られるようになり、共なる認識や方向性を持ちながら保育に従事できた。	A	園の目指す子どもの姿をさらに広く共有すべく、様々な垣根を超えたミーティングを実践していく。	パートごとのコミュニケーションが図られているようで、その成果が保育内容や保護者対応に活かされているように感じる。今後も子どもや保護者、また地域のために継続してコミュニケーションの場を整えて欲しい。
	③保護者や地域の願いを受け止めながら、教育（保育）理念等の目標達成に向け、適切な内容で園の行事を行う。	〔◎〕日々の保育と行事が連動性をもって取り組むことができた。引き続き、関わる人たちの気持ちに寄り添いつつ取り組んでいきたい。	A	職員からは行事の数が多いとの声もある。それぞれの行事に対する意図を共有し準備段階から助け合うことを、改めて意識したい。	行事に限らず、土曜日保育や病後児保育等、保護者のニーズを聞きながら先進的な園の体制を追求して欲しい。ただ、園の理念やキャパシティをしっかりと捉え、皆にとって無理のない範囲での取り組みを。
2 保育の質の向上と子どもの発達支援	④教職員の研修の機会を確保し、保育の質の向上に努める。	〔〇〕学ぶことに対する意識に個人差が生じている。保育の質を向上すべく、研修への意識を高めていきたい。	A ↓ B	学ぶことの大切さを再認識し、園内外の研修機会を大切にする。	園として、職員の「学べる体制構築」や「意欲の引き出し」に引き続き務めて欲しい。保育についても多様化する時代であるから、「学ぶ」ことは大切である。
	⑤子どもの人権を尊重し、幼児一人ひとりの人としての尊厳を守るように配慮する。	〔◎〕園児一人ひとりを大切にしている保育を、全教員が心掛けながら遂行できた。保護者にも自身の子が大切に扱われていることが伝わっており、安堵している。	A	今後も人権尊重を最優先に、園児一人ひとりを大切にしている保育を推進する。	子どもの権利を守りながら保育を行っていることが保護者にも伝わっているようで安堵している。今後は更に不適切保育に対する理解を職員・保護者の相互で理解を深めながら、職員が自信をもって保育に携わることが出来るようにしていきたい。
	⑥幼児一人ひとりの理解を深め状況に寄り添いながら健全な発達支援に努める。	〔◎〕「人権尊重」と併せて、昨年より保護者の評価が更に上がった項目であり、教職員の意識も高い。	A	発達支援という観点では一層子どもを深く理解し、丁寧な声かけや対応に努めたい。	人と人との関わりを大切に保育していきたい。できない人に対してどれだけ歩みよれるか、信頼関係をどう築くか、ということを大切な視点として持ち続けて欲しい。
	⑦幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保するための環境を整える。	〔◎〕子どもが主体的に遊ぶことのできる環境が整ってきた。教室の整理や教材準備についての意見はあるが、前向きな意見として受け止めることができる。	A	更に子どもの遊びに幅を持たせられるよう、職員が考える環境構成を具現化していきたい。	子どもが興味を持っている活動に着眼し、活動を発展させる環境について職員同士が意見を交わし、必要な環境構成をイメージしながら具現化させていきたい。「主体性」という言葉の意味を考え、ただ甘やかすのではなく子どもの自立を促す取り組みを。
3 健康と安全	⑧幼児期の生活に相応しい安全な環境を整えるように努める。	〔◎〕安全な保育を展開する為の事故防止策や感染症対策を講じる意識は高い。	A	事故が起こってしまった後の対応について、再発防止の観点を持ちつつ理解を深めたい。	まずは事故を起こさないこと。しかし、事故が起こってしまった場合には、その後の初動と点検が大切である。保護者に対する報告もこれまで通り適切に行って欲しい。
	⑨避難訓練や交通安全教室を計画的に実施し、事故防止や感染症拡大防止に努める。	〔◎〕想定を変えながら実施している避難訓練により防災意識が高まっている（今年度はクマ出没想定で実施）。	A	備品の確認や安全マニュアルの周知徹底を行う。また改めて感染症対策への理解を進めたい。	昨今の犯罪は巧妙であり、他の地域の話ではない。子どもたちを安全な環境で保育すべく、あらゆる可能性を想定した防災・防犯の訓練を。
	⑩安心安全な給食提供に努めるとともに、幼児の発達に応じた食事の介助や食事指導を丁寧にを行い、食育を充実させる。	〔◎〕総合的に食育に対する意識は高い。給食室と現場との連携が増え、アレルギー対応等、給食提供における重要な情報共有が強化できた。	A	嫌いな食べ物との向き合い方についての工夫を、給食室と連携しながら考えていきたい。	給食スタッフとの会議は定期的に行っている。また給食スタッフが自ら子どもが食べている様子を観察し、向上心を持って工夫を凝らしている姿に敬意が持てる。さらに食に対する興味が持てるような工夫をしていってもらいたい。
4 特別支援保育	⑪幼児一人ひとりの個性を把握し、保護者や関係機関との連携のもと、特別に配慮の必要な幼児への指導の充実を図る。	〔◎〕保護者や関係機関と連携を図りながら、配慮が必要な園児への支援を行なった。保護者の評価が上昇している項目であるから、一人ひとりの子どもと真剣に向き合う姿勢が評価されたのだと思う。	A	子どもの「困り感」を第一に考え、適切な支援方法を保護者と共に作り上げる。また、園全体で発達の過程や障害についての理解を更に深めていきたい。	継続して一人ひとりの子どもたちに対する手厚い支援を行って欲しい。現状、市の特別支援施設の利用が人員不足等の理由でしにくくなっていることを耳にするが、園としてどの子も差別されることなく、園児同士の関係がより豊かになるような支援の方法を考えて欲しい。
5 保護者支援と関係機関等との連携	⑫園の公開や情報の積極的な発信・提供を行う。	〔◎〕スマホアプリやSNSを通じて子どもや園の様子を発信することに加え、保護者交流会に職員が積極的に参加し親睦を深めることが出来た。	A	引き続き保護者とのコミュニケーションの機会を設け、信頼関係を深めたい。	コドモンアプリで子どもの様子を伝えること、SNSを活用して自園の良さをアピールしていくことは継続してもらいたい。保護者交流にとどまらず、東相内地域を盛り上げるような交流の場を提供してってもらいたい。
	⑬未就園児の保育体験、日常の子育て相談や情報提供など、子育て家庭への支援を積極的に行う。	〔◎〕政府が今年度から開始した「誰でも通園制度」運用や既存の未就園児クラスを通して、子育てに不安を抱える保護者の受け皿となることが出来た。	A	今後も保護者の気持ちに寄り添い、園の考えを丁寧に説明しつつ、両者が手を携え合いながら保育に向き合う。	保護者との信頼関係づくりのためにも積極的にコミュニケーションを図ることを大切に。未就園児が集まりやすい場や、保護者同士の交流の場、また子育てしやすい地域として定着するように、新たな制度をうまく利用しながら努めていってもらいたい。
	⑭市役所担当課や教育委員会などの関係機関や地域にある学校（小中高校）との連携や交流を積極的に行う。	〔◎〕地域との関わりは積極的に設けており、交流が深まっている。地域の小中高校との連携も図ることが出来た。	A	幼小接続は現代の大きなテーマであるから、子どものみならず教職員同士の交流も図りながら、地域をあげて子育てに取り組んでいきたい。	幼稚園と小学校の接続をスムーズにいくためにもさらなる連携を図っていくこと。小中高との交流を通して、地域の共助の和が広がることを継続して期待したい。

【注意】・各目標の達成度を〔 〕に◎○△▲で記す。 ・評価をA B C Dで記す。